研究論文

日中韓における道徳資料の比較研究
――特に韓国の小学校第１学年の『正しい生活』における「礼」に着目して――

那　　楽※

Comparative Study on Moral Teaching Materials in China, Japan and South Korea
Analyzing a South Korean Elementary School Grade 1 Textbook from a Perspective on "Etiquette"

NA Le

はじめに

本研究は，日中韓における道徳授業の特質を解明する一環として，道徳資料を比較的に考察するものである。ただし，本稿では，その研究の基底として，特に韓国の小学校第１学年の『正しい生活』(바른생활）を中心にしながら，儒教思想の中でも「礼」の視点から比較検討する。なお，ここでは，「礼」という言葉は，日中韓三カ国における多様な定義を勘案して，「社会生活をする上で，円滑な人間関係や秩序を維持するために必要な倫理的規範であり，自他相応の尊重の気持ちだけではなく，言葉や行動様式全般を包括するもの」という意味で使用する(1)。

東アジアに位置している日中韓三カ国は，地理的にも近く，歴史的にも深い関係を有してきたために，文化的な影響関係も強い。特に，日中韓三カ国においては，儒教思想は，各国の文化の中に深く根づいており，各国の道徳教育においても少なからず影響を与えている。その中でも「礼」は，儒教思想の中核的な価値観の一つであり，人間関係において欠かせないものである。たとえば，日本の伝統的な稽古事として剣道・将棋・茶道・華道などがあるが，これらは全て「礼」に始まり「礼」に終わることになっている。同様に，中国でも「礼」は伝統的な文化の核心であり，社会生活のうえで円滑な潤滑油と言われている。韓国でも，

※筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻（道徳教育）

中国の儒教思想から強い影響を受けた「礼」が生まれ，韓国人の意識に深く根付いている。また，当然ながら，「礼」の思想は国や地域の相違だけでなく，時代とともに変化しているため，今日説かれている「礼」の思想が以前のものと同じであるとは限らない。しかし，いずれの時代の「礼」の思想も過去の経験や教訓といった知恵を礎に築かれたものであり，現在の「礼」も過去の文化の影響を受けている。そうした，これまで連綿と受け継がれてきた「礼」の文化を無視して，現在の三カ国の道徳教育は成り立たないであろう。したがって，三カ国において道徳資料は，道徳教育を促進するための欠くことのできない重要な手段として，「礼」の思想を指標としながら分析論述することは有効な方法であろう。なぜなら，「資料における人間の具体的な生き方に触れさせ，道徳的価値の理解と道徳的価値についての内面的自覚を促すことを意図するのである」と押谷慶昭が述べるように，道徳教育で指導資料を用いるのは重要である[2]。具体的に言えば，日本の場合，文部科学省の平成24年度道徳教育実施状況調査結果によれば，読み物資料は，教師にとって道徳教育を行うための主要な資料となっている[3]。それに対して，中国と韓国では道徳が教科として位置づけられていることもあって，教師は必ず教科書を利用して授業を行うことになっている。本稿では，道徳資料の中でも，煩雑さを避ける意味で，読み物資料に限定しながら考察する。

日中韓における道徳教育に関する先行研究については，その成果は枚挙に暇がないくらい三カ国に存在しているが，道徳資料それ自体を対象とし，俯瞰的な視座から詳細に探究したものは決して多くない。中国においては，王凌浩と桂勤などをはじめ，数多くの研究者が自国の道徳教育の変遷を考察している[4]。そして，曹能秀と饒从満などの研究者は，副読本を中心にして，日本における道徳資料について検討している[5]。また，日本においても，間瀬正次と木原孝博などの研究者が日本の学校における道徳授業の特徴を，馬越徹が韓国における学校教育の特徴を詳細に分析している[6]。韓国においては，李沢輝と金会式などをはじめ，数多くの研究者が，自国である韓国の道徳授業の変遷を考察している[7]。

これらの先行研究はいずれも，日中韓それぞれの国における道徳教育の変遷，目標，内容，方法などの特徴について，一国に特化して考察したものになっており，異国間の比較研究はごく稀である。しかし，自国を他国との関係で相対化する視点は重要である。そのような研究については，中国において王麗栄は，道徳授業の目標や内容などの視点から，日中における道徳授業の歴史を比較研究し，

両国の道徳授業の変革の特徴を明らかにした。王は，日中の道徳教育の変遷について比較するものの，道徳授業や道徳資料については詳細に論述していない[8]。

それに対して，姜英敏は日韓の道徳教育のみならず，道授授業と道徳資料についても詳しく考察した。その点で，姜の著書『日韓道徳授業理念の比較研究』は，日韓における比較道徳教育研究に関して最も優れたものであると言えよう。姜は著書において，文化思想の視点から，戦後日韓における道徳授業の相違点について，教える側から系統的な道徳授業を重視する韓国に比べ，日本の道徳授業は児童生徒の欲求を尊重していると指摘した[9]。

しかし，この研究は次の二点において不十分であると考えられる。一つは，その研究では異国間の比較が行われているものの，主として中国を客観的な研究対象とすることなく，日韓両国の比較を通して，両国の長所を見出し，それらを中国に無批判に取り入れようとしている点である。もう一つは，具体的な道徳資料のレベルまで，文化との関わりの中で詳細な考察が内容について行われることなく，道徳授業の基本的な特徴を明確化した段階にとどまっている点である。この先行研究の限界を踏まえ，中国の道徳資料を相対化して捉えるために，日中韓の道徳資料を俯瞰的視点から考察するとともに，三国の文化の基層に流れる「礼」の思想を手がかりにしながら，道徳授業において用いられる道徳資料の特徴を解明しようとすることが重要である。その際に，三カ国の文化の基層に流れる「礼」の思想を手がかりにしながら，道徳資料を主眼に置いて検討する。なお，今回の研究は，「礼」の視点から，韓国における小学校第１学年の道徳資料，特にその『正しい生活』を中心に扱うこととする。

この課題に応えるために，まず，韓国における道徳教育の目標を確認する。そこでは，道徳資料を支える理論的基底を，特に「礼」とのかかわりの中で，その成立事情とともに明らかにする。次に，「礼」の視点から，韓国における小学校第１学年の道徳教育の内容，そして道徳資料の具体的な内容をそれぞれ詳細に分析する。最後に，以上の論究を踏まえ，日中両国の視点から，韓国小学校の第1学年の『正しい生活』の特質を比較検討する。

１．道徳資料の理論的基底としての目標における「礼」

韓国の場合，道徳教育の目標は，『教育法』(교육법) に記された教育の目標を拠り所として作成されている。したがって，そこで記された教育の目標は，道徳資

料の理論的基底になっている。『教育法』の第1条において，韓国の教育の目標は，「…教育は弘益人間（홍익인간）の理念の下，すべての国民をして人格を完成し，自主的生活能力と公民としての資質を具有させるようにし，民主国家発展に奉仕し，人類共栄の理想実現に寄与させることを目的とする…」と示されている[10]。

それを受けて，『2007年改訂教育課程』(2007년개정교육과정)の「道徳」(도덕)では，道徳科の目標は，「韓国人としての望ましい人生をおくるために必要な道徳規範(도덕규범)や礼節(예절)を身に付け，日常生活で直面する道徳的問題に対して望ましく合理的に解決していくのに必要な道徳的判断力を育成し，同時に市民意識(시민의식)と国家・民族意識(국가 민족의식)，及び人生の理想(인생의 리상)と原則を体系化し実践することができる道徳性を培わせる(도덕성을 배양시킨다)」と記されたうえで，次のような機能目標とともに，小目標が掲げられた。

(1) 人間の生き方が道徳的でなければならない理由を理解し，生き方の多様性による価値葛藤問題(가치분쟁문제)解決できる価値判断能力(가치판단능력)の伸長とともに人間尊重の姿勢(인간존중)を持つ。

(2) 家庭・近隣・学校生活で要求される道徳規範と礼節を身に付け，このような生活の中で登場する道徳的問題に対して合理的な解決方法を模索する価値判断能力を伸ばし，望ましい生き方ができるような生活態度(생활태도)と実践意志(실천의지)を持つ。

(3) 伝統道徳(전통도덕)と市民倫理(시민윤리)を中心とする今日の民主社会の道徳を理解・実践し，現代社会で発生する道徳問題を解決できる能力を伸ばし，円満な社会生活を営めるようにする。

(4) 国家，民族，民族文化を大切にし，愛国・愛族の姿勢をもたせ，国土と民族分断の現実，及び大韓民国と北朝鮮の統一政策と統一課題を把握し，統一を成し遂げるのに必要であり，且つ統一以後にも期待される望ましい韓国人としての能力と態度および行動性を持つ[11]。

この記述を見る限り，韓国における道徳科の総目標は，四つの機能目標に区分されたうえで，「礼」に関する内容が明確に示されている。たとえば，総目標では，規範・礼節を体得し，合理的な判断力や市民意識，国家・民族意識を育成することで望ましい韓国人を育成することが記されている。小目標では，道徳的な課題に対する合理的な解決方法を育成するように，「家庭・近隣・学校生活で要求

される道徳規範と礼節を身に付け」ということが重視されている。つまり，「礼」の思想が，「礼節」という言葉を通して直接的に明示されている。

また，他の小目標の内容において，「礼」に関する内容は，「礼」という漢字が一文字も使用されていないところに顕著に表れているように，直接的に示されていない。ただし，次の二つの表現には，間接的には「礼」につながる内容は垣間見られる。つまり，「人間尊重の姿勢を持つ」と「伝統道徳と市民倫理を尊重する」の箇所である。

前者の「人間尊重の姿勢」について言えば，『2007年改訂教育課程』にも記されるように，それは，「生命の尊重，人格の尊重，人権の尊重，人間愛などの根底を貫く精神」である。特に民主的な社会においては，人格の尊重は，「自己の人格のみではなく，他の人々の人格をも尊重すること」であり，人権の尊重は，「自他の権利の主張を認めるとともに，権利の尊重を自己に課するという意味で，互いに義務と責任を果たすこと」を求めるものである。しかも，これらの理念は，「相互に人間を尊重し信頼し合う人間愛の精神によって支えられる」ために，「礼」という「社会生活をする上で，円滑な人間関係や秩序を維持するために必要な倫理的規範」につながるものである。

後者の「伝統道徳と市民倫理を尊重し」について言えば，「伝統道徳と市民倫理」の意味内容は，もちろん韓国のものを指している。その場合，「伝統道徳と市民倫理」の中には，韓国の歴史上のさまざまな文化内容が含まれるわけであるから，少なからず儒教の「礼」の思想が深く浸透しており，「礼」を理解するという目標が，必然的に出現することになる。その意味で，あくまでも「伝統道徳と市民倫理」にかかわって，内容的に探れば「礼」につながる要素が見られる，すなわち，基本的な人間関係を規律する五つの徳目を示しており，実質的に「礼」の一部を指していると考えられる。したがって，韓国において「礼」という思想は，道徳科の目標の中に明に暗に示されていると言えよう。

以上のことから，韓国における道徳資料の理論的基底としての道徳科の目標を「礼」の視点からみると，次のように整理することができる。すなわち，韓国の場合，道徳科の総目標は「道徳性を培う」というように，具体的な小目標が記されており，そこには「礼」の思想は，「道徳規範と礼節を身に付け」という表現で，「礼節」を説くというかたちで明確に示されているだけではなく，「人間尊重の姿勢」を大切にするという考えに則って，「伝統道徳と市民倫理」を尊重するという

表現で，「礼」の思想が具体的に暗示されている。

2．道徳資料の基軸としての内容における「礼」

韓国における道徳科の内容は，小学校低学年（第1学年と第2学年）では，日常生活において必ず守るべき基本生活習慣，礼儀及び規範に関する5つの領域から成されている。小学校中・高学年，中学校という発達段階に分けられたうえで，それぞれについて，「個人生活」，「家庭・近所・学校生活」，「社会生活」，「国家・民族生活」という4つの視点から区分され，それぞれの区分のなかに複数の道徳的価値（徳目）が組み入れられている[12]。そこでは，道徳教育の内容の区分は，目標のところで示された中身とはあまり直接的に関係のありかたちで登場している。つまり，その内容の区分は，目標を達成するための方略上から直接的に見出されたものではなく，内容それ自体をわかりやすく提示するという意図から整理したものであると言える。

そこでの第1学年（実際には，第2学年は共通）の内容を見ると，「自分のことは自分でやる」には4つの内容項目が，「礼儀を守る」にも4つの内容項目が，「他人の事を考える」には3つの内容項目が，「秩序を守る」には4つの内容項目が，「国を愛する」には4つの内容項目が組み入れられている[13]。つまり，19個の内容項目が，道徳資料の基軸として組み入れられている。具体的な内容は表1のように示されている。

表1に示されるように，「礼」に関連する内容としては，「礼儀を守る」におけるすべて，すなわち4つの内容項目を通して直接的にあげられる。また，「礼」を広義に解釈すれば，「自分のことは自分でやる」と「秩序を守る」という領域の8つの内容項目は，身を守るための基本的な能力から公共的なマナーを意味していることを勘案すると，「社会生活をする上で，円滑な人間関係や秩序を維持するために必要な倫理的規範」と見なされ，「礼」の内容に含まれる。また，端的に表現すれば，「他人のことを考える」では，「相応尊重の気持ち，言葉や行動様式全般を包括する」と見なされ，「礼」の内容に包含されよう。すなわち，「礼儀」とともに，「思いやり・親切」「信頼・友情」があげられているが，これらは，「社会生活をする上で，円滑な人間関係や秩序を維持するために必要な倫理的規範であり，自他相応の尊重の気持ちだけではなく，言葉や行動様式全般を包括するもの」という「礼」に，十分に包括できる。また，「国を愛する」における「国旗の掛け方

表１．韓国における小学校第１学年の道徳の内容

学　年	領　　域	主要な内容項目
第１学年	自分のことは自分でやる	体をきれいに
		姿勢を正しく
		整理，整頓する
		自ら準備し，勉強する
	礼儀を守る	正しくあいさつする
		正しく食事する
		正しく言葉つかい
		礼儀正しい生活
	他人のことを考える	友達と仲良くする
		約束を守る
		環境をきれいにする
	秩序を守る	順番を守る
		学校の規則を守る
		交通規則を守る
		公共秩序を守る
	国を愛する	国旗の掛け方を知る
		国歌を正しく歌う
		無窮花を愛する
		統一への関心をもつ

（教育部告示『2007年改訂教育課程 小学校教育課程―国民共通基本教育課程―』，大韓教科書株式会社，1998年版　より　筆者作成）

を知る」や「国歌を正しく歌う」の内容も，上述したものと同様に，「礼」に十分に包括できるものである。

以上のことから，韓国における道徳資料の基軸としての道徳の内容に関してみると，ほとんどの内容において，「礼」に関することが理論的基底に確認できる。

３．教科書における「礼」

韓国において道徳教育がすべての教科とその他の教育活動全般に渡って実施され始めたのは1955年８月に公表された第１次教育課程である。第１次の教育課程の道徳教育は特に制定された道徳科教育課程ではなく，全教科及び教育活動全般にわたって年間35時間以上を行うことが定められた総合教科の一形態であった。日本の学習指導要領に相当する韓国の国家水準カリキュラムだが，1955年から1997年の「第７次教育課程」までは７－８年毎に改訂され，現在は2007年に告示

された「2007年改訂教育課程」（今回からは「第◎次教育課程」とは呼ばない）の段階的な移行期間となっている。第７次教育課程では，「生徒の学習と日常生活に必要な基礎能力の培養と基本生活習慣の形を中心に置く」という基底に基づいて，道徳科科目の編成に変更があった。

すなわち，表２に示されているように，道徳科は「国民共通基本教育課程」の一つとして３－10学年に位置づけられているが，教育活動全体を通じても行われることとされている。なお，初等学校低学年（１，２学年）の道徳科が廃止され，道徳科と国語科の統合教科である「正しい生活」に改編されたが，11－12学年には選択科目として「市民倫理」，「倫理と思想」，「伝統倫理」が設置され，基本的に現行の「2007年改訂教育課程」においても「道徳科」の「教科」としての位置づけには変わらない[14]。

韓国では道徳が教科として位置づけられているために，韓国における道徳授業で使われている読み物資料は当然のことながら「教科書」と呼ばれる。全国に共通に使用されている道徳科の教科書は国定の一種類しか存在しない。本稿は小学校第1学年の教科書（上巻と下巻）について，「礼」の内容にかかわる資料を抽出して，前記の５個道徳領域（自分のことは自分でやる，礼儀を守る，他人のことを考える，秩序を守る，国を愛する）に応じて分類すると，表３のように示されている。

表３に示すように，道徳資料において「自分のことは自分でやる」，「礼儀を守る」，「他人のことを考える」，「秩序を守る」，「国を愛する」という領域は「礼」の内容に包含されている。たとえば，小学校第１学年においては，友達との間において基本とすべき精神である。幼児期の自己中心性がまだ残り，友達とよい関

表２　2007年教育課程における道徳科の位置づけ

	小学校		中学校　高等学校	
学　年	１　２	３　４　５　６	７　８　９　10	11　12
道徳教科	「正しい生活」	「道徳科」		「市民倫理」 「倫理と思想」 「伝統倫理」
教育課程	国民共通基本教育課程			高等学校選択 中心教育課程

（教育部・教育科学技術部「2009年教育課程告知文」より　筆者作成）

表３　韓国における小学校第１学年『正しい生活』の内容構成

巻	課		内　　容	道徳領域
上巻	1	楽しい学校生活	学校生活で守るべき規則	秩序を守る
			室内で守るべき規則	
			室外で守るべき規則	
			自分の生活を振り返ってみましょう	
	2	一人でもできる	学校で自分がするべきこと	自分のことは自分でやる
			家で自分がするべきこと	
	3	家族と一緒に楽しく食事をする	正しい姿勢で座り方	礼儀を守る 他人のことを考える
			食器の使い方	
			偏食しないこと	
			食事時に守るべき礼儀	
			楽しい給食時間	
	4	正しい姿勢	正しく座り，立つ，勉強すること	自分のことは自分でやる，礼儀を守る
			正しく歩くこと	
	5	友達を仲良くし	友達と仲良くするいいところは	自分のことは自分でやる，他人のことを考える，礼儀を守る
			友達と仲良く方法	
			友達と仲良くするための計画	
	6	あ～夏だ	夏休み計画をちゃんと立てて実践する	自分のことは自分でやる，秩序を守る
			体をきれいにするためにやるべきこと	
			公共場所での守るべきこと	
下巻	1	自分の体	手足をきれいにする	自分のことは自分でやる
			正確に歯を磨くこと	
			よくお風呂に入ること	
			自分の生活を振り返ってみましょう	
	2	順番を守る	学校で順番を守らなければならない	秩序を守る 礼儀を守る
			公共の場で順番を守ること	
	3	一緒に節日を過ごす	相手に適するあいさつ	礼儀を守る
			時と場所に適するあいさつ	
			ちゃんとあいさつする方法を学ぶ	
	4	全員で使うもの	全員で使うものを大事にする	他人のことを考える
			全員が便利に使うことができる	
	5	周りがきれいにする	ゴミをちゃんと処分する	他人のことを考える 秩序を守る
			再利用する	
	6	わが国を愛する	わが国を代表するものを大事にする	国を愛する
			国に愛する実践する	
	7	冬休みを充実に過ごす	健康な生活を過ごす	秩序を守る，自分のことは自分でやる

（『正しい生活』教科書第１学年上巻・下巻　教育部　2009年版より　筆者作成）

係を築くことは難しいと考えられる。「他人のことを考える」とは，相手の立場を推し量り，自分の気持ちを相手に向けることである。よい人間関係を築くために，相手に対する思いやりが不可欠である。すなわち，道徳資料において礼儀の形にこめられた相手の立場に立って心のこもった接し方を通して友達と仲よく遊んだり，協力したり，信頼感や友情をより強く感じられたりするようになる。なお，数量的に言えば，小学校第１学年の総資料に占める「礼」に関する資料の割合を確認したところ，平均で約90.6％となる。

その点について詳細に検討して提示すべきであるが，本稿の字数制限の関係で，それぞれ「礼」に関するすべての資料を詳細的に比較することは不可能である。したがって，「礼儀」の資料を一つの事例を抽出して，それについて簡潔に考察する。

図１に示すように，１年生の『正しい生活』下巻の「一緒に節日を過ごす」という道徳資料を見ると，異なった状況場面を描いた絵が掲載されている（翻訳筆者)。そこには，「相手によって相応しい言葉であいさつする」という総タイトルで，四つの絵がある。その中，一つ目は「祖父母のお宅に伺った時」というタイトルがあって，子どもが祖父母とあいさつをしているという場面である。二つ目は「大人の親戚に出あった時」というタイトルで，子どもは丁寧に大人の親戚とあいさつをしているという場面である。三つ目は「いとこに出あった時」というタイトルで，いとこは出かける前に家族とあいさつをしているという場面である。四つ目は「隣人と出あった時」というタイトルで，子どもがマナーよく隣人とあいさつをしているという場面である。

図１の下側をみると，「時と場所によって相応しい言葉であいさつする」という総タイトルで，四つの場面がある。一つ目は「おばあさん，ありがとうございます」というタイトルがあって，食べ物を召し上がっていただいておばあさんとあいさつをしているという場面である。二つ目は「おじいさん，すいません」というタイトルで，子どもは電車で隣のおじいさんの足を踏んだ後，謝っているという場面である。三つ目は「お久しぶりです」というタイトルで，子どもは長い間会わなかった親戚に会っているという場面である。四つ目は「おじいさん，おばあさん，どうぞ上がってください」というタイトルで，子どもが自分のうちにいらっしゃった祖父母を迎えているという場面である。

さらに，上述の場面の言葉を覚えさせるために，練習する内容が作られ，図２

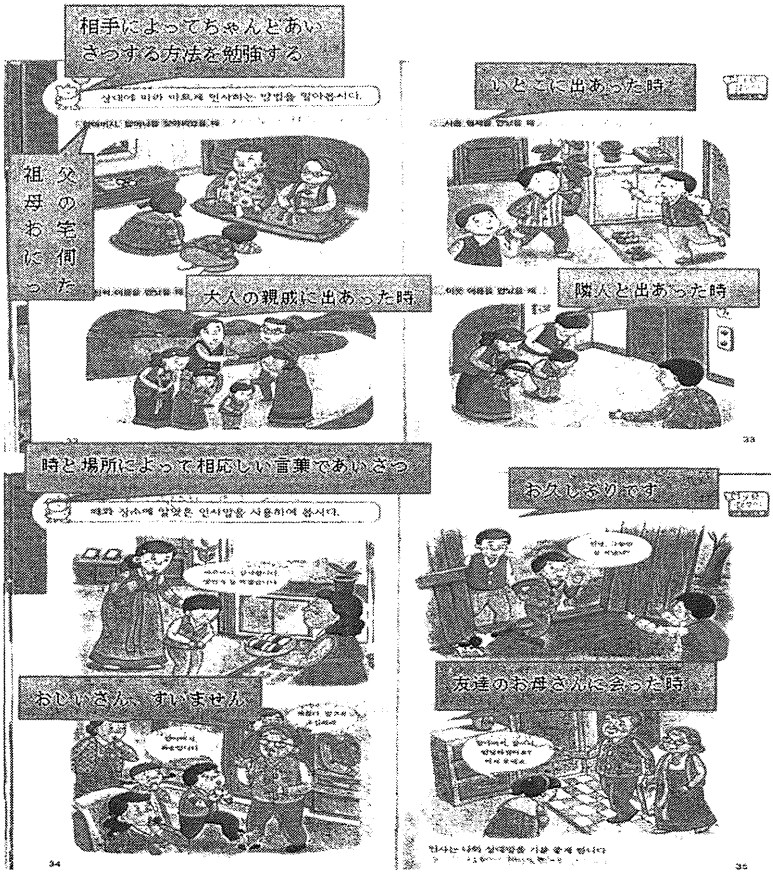

図１　「一緒に節日を過ごす」

から掲載されている。まず，「ちゃんとした姿勢であいさつする方法を学んで，練習してみてください」というタイトルで，ただしい「目礼」と「敬礼」のやり方を４つずつの絵で示されている。次に，「相手と状況に適する言葉を使ってちゃんとした姿勢であいさつしてみてください」というタイトルで，日常生活の場面が４つの絵に掲載されている。最後に，「自分の生活を振り返ってみてください」という欄があって，それを通して児童が自ら考える機会も設けられている。

以上のことから，韓国において道徳授業にとって大きな影響を与える道徳資料

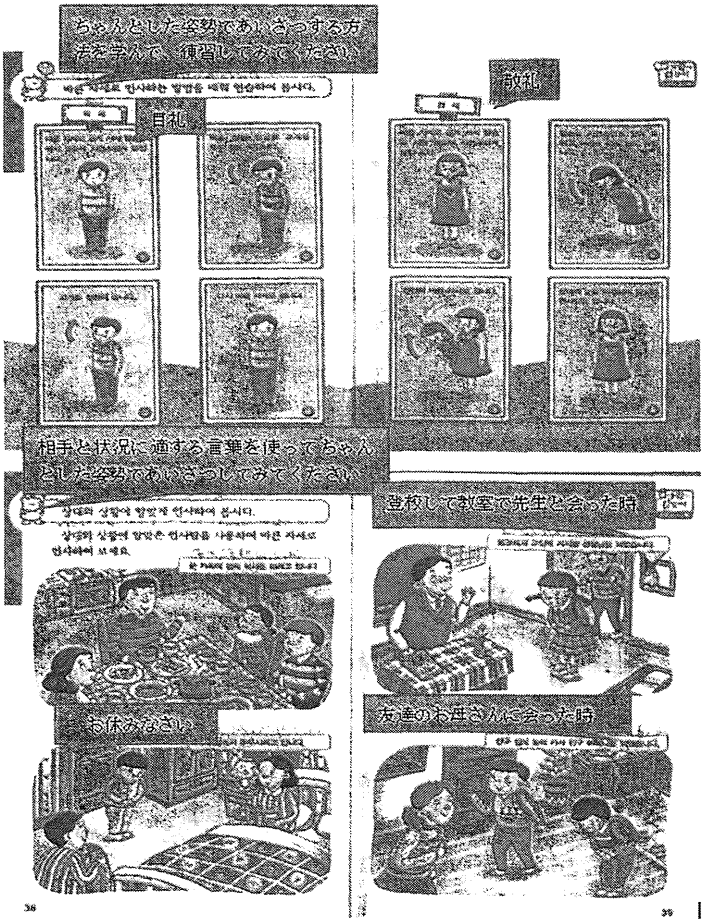

図２　「一緒に節日を過ごす」

の特徴について「礼」の視点から見ると，次のように整理することができる。韓国における「礼」に関する道徳資料は，あいさつする時，相手，時と場面によって相応しい行為を具体的な状況場面を単純に示して，指導することになっている。すなわち，いくつもの場面を示して，挨拶の仕方を教え，「自分の生活を振り返って」を通して，道徳的な行為を定着させようとしたものである。

4．韓国における「礼」の特質

ここでは，最初に，韓国における「礼」の特質について整理していくことにしたい。

まず，道徳資料の理論的基底としての目標に関して言えば，韓国では儒教思想からの影響がいまだ深く根づいており，「弘益人間」に則りながら，「韓国人としての望ましい人生をおくるために必要な道徳規範や礼節を身に付け，道徳性を培わせる」を目標としており，「礼」に関する重要性は明確強調されている。また，「道徳性を培わせる」という目標が示されている後，きわめて長い文章で多量の小目標を語られている。その中では，「礼」という漢字も使用されていない内容もあるが，現在における道徳資料の目標も根本的には変わっておらず，伝統的な「礼」や「孝」など儒教思想に基づく目標が示されている。

次に，道徳資料の基軸としての内容における「礼」に関して見ると，韓国における内容が主に五つの領域に分けられ，ほとんど「礼」に関連している項目である。その中には，「礼儀を守る」に関する内容のみならず，礼儀正しい行為をすることによって，自分も相手も気持ちよく過ごせるようになることがよりいっそう重視されている。

さらに，教科書における「礼」の視点から見れば，韓国における「礼」に関する資料が総資料に占める割合は，90％以上である。そこに，日常生活の場面をいくつ取り上げて，「絵」によって示されている。韓国における「礼」に関する資料の内容は，「礼」の道徳的価値に限定するのではなく，他の道徳的価値の要素をも含んだ複雑なものとなっている。

以上まとめたことを踏まえ，日中両国との比較において考察すると，次のようになる。

第一に，道徳資料の理論的基底としての目標に関して言えば，次のように推察することができる。日本の場合，道徳教育の目標は「道徳性を養う」，道徳授業の目標は「道徳的実践力を育成する」というように，最終的な目標は示されており，その記述過程において，道徳教育の目標としては「豊かな心をもち」「個性豊かな文化の創造を図る」「公共の精神を尊び」などのさまざまな目標が，また道徳授業の目標としては「補充，深化，統合し」「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め」などという目標が，長い文章の中で語られている。つまり，全般的に具体的な目標は提示されていないこともあって，「礼」という思想は間接的には反映されていても，直接的には明確に提示されていない。日本と比べてみ

ると，韓国では「礼節」という言葉を通して「礼」の思想が直接的に明示されている。また，役割に関しても，「道徳的実践力の育成」しようとする日本と同様に，韓国では，「道徳性を培わせる」しようとする内面的資質を強調する。

それに対して，中国の場合，抽象的な大目標が示された後で，具体的な小目標が記されており，そこには「礼」の思想は，「礼儀を正しくして，規則を守る」という表現で，「規則を守る」とかかわらせながら「礼儀」を説くというかたちで明確に示されているだけではなく，「長幼の序」を大切にするという考えに則って，「年配の方を尊敬」するという表現で，「礼」の思想が具体的に暗示されている(15)。中国では「礼儀」という言葉を通して直接的に明示されている。中国と比べてみると，「児童のよい道徳性と習慣を育成させ，生活に情熱を持つように導く」という行為でも重視されている中国と違って，韓国では内面的資質が強調されている。両国は「礼」という思想が直接に示されている同時に，「礼」を含めている内容で暗示する。韓国では，道徳教科としての「正しい生活」は，中国における「品徳と生活」と同じように，学校全体での目標ではなく，あくまでも一教科の目標となっている。この点については，中国と韓国似ていることが確認できる。

したがって，韓国の特徴について，日本と中国と比べながら整理すると，次のようになる。韓国において「礼」の思想は目標レベルにおいては，明示されている。教科としての「正しい生活」特質が浮かび上がっており，韓国における道徳資料は教科書として，道徳授業の核心ということが明確に意識されていた。

第二に，道徳資料の基軸としての内容を見ると，日本における内容が主に４つの区分に分けられ，そこに「礼」に関連している項目は総項目の三分の一を占めている。その中には，「あいさつ」だけではなく，「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し，親切にする」など「礼」の視点を十分に包括できるものも含まれている。また，抽象的な目標と違って，内容項目は児童の発達段階を考慮し，学年によってそれぞれの項目が示されている(16)。それに対して，韓国における内容は，５つの領域の区分の下で，それぞれの内容項目が低学年児童の段階や道徳課題を考慮した，基本的なものとなっている。ここでは，「礼」の内容の割合については，数量的に言えば，日本より韓国の方が多い，全部の内容である。また，「礼」に関する内容を資料として編纂する段階において，日本よりも韓国の方が「礼」として扱う内容が繁雑なっており，一つの資料の中に「礼」にかかわる複数の徳目が組み入れられる。

中国における内容は，望ましい生活の在り方を４つに区分としたうえで，道徳の内容項目（道徳的価値）が組み込まれている。一つの内容は「礼」の道徳的価値に限定するのではなく，他の道徳的価値の要素をも含んだ複雑なものとなっている。この点について，韓国と中国の類似点も見られる。たとえば，韓国と中国は，「礼」が強調されつつも，個人の基本的な能力を育てることだけではなく，愛国主義，集団主義的な価値観をもたせることも目指されている。

したがって，韓国の特徴について，日本と中国と比べながら整理すると，次のようになる。韓国における『正しい生活』の内容は全部「礼」の思想を含まれている。学校で目指される道徳教育が政治と一体化取り扱われているという特質が明らかであった。

第三に，道徳資料を見ると，日本の場合は，第１学年の資料であっても，読みものとしてストーリー性のある簡易な物語が用いられ，そこから教師は想定した一つの価値観を児童に読み取ることが求められている。道徳資料の構成について，日本では，目次から各課のテーマが分かるようになっており，１つの内容項目がそのまま並べられていることが一目瞭然である。特に，日本の資料が，一つのストーリーとなっている。それに対して，韓国における小学校第１学年の『正しい生活』は，児童の日常生活に関する題材を取り上げて，「絵」によって示されていることが確認できた。道徳資料の表紙や目次から内容項目の判断はできない，複数の内容項目を扱われている資料が示される。たとえば，「礼」の道徳的価値に限定するのではなく，他の道徳的価値の要素をも含んだ複雑なものとなっている。その意味では，日本の場合と異なり，道徳的価値がさまざまな状況の中で多角的・多面的に扱われやすくなっていると言えよう。

中国の場合は，「礼」に関する資料は，場面によって相応しい行為を具体的な状況場面を単純に示して，指導することになっている。中国の資料はいくつもの場面を示して，挨拶の仕方を教え，「礼儀歌」を歌うことで道徳的な行為を定着させようとしたものである[17]。韓国と中国の場合，「礼」道徳的価値だけに限定するのではなく，他の道徳的価値が生活に即して混在された類似点が確認することができた。この点に関して，さらに考察していくと，韓国と中国の資料がより豊富な内容を一度に扱うことができる要因の一つに，両国のこの段階における資料がほとんど「絵」によって示されているということがあげられる。すなわち，両国は基本的に絵を眺め，歌を楽しくうたって覚えることが期待されている。活字に

よる情報が得られないため，絵の意味するところや解説などは教師の説話によって自由に補われる。

したがって，韓国の特徴について，日本と中国と比べながら整理すると，次のようになる。韓国の場合，「礼」に関する資料は，日常生活のいくつの場面によって相応しい姿勢と言葉を示して，指導することになっている。そこでは，道徳的価値が実生活に即して多角的・多面的に指導しやすいという長所を有しているが，繁雑で表面的な指導に陥りやすい短所を持っている。

以上のことから，韓国の小学校第１学年の『正しい生活」における「礼」の特質について考察した結果，以下のような結論を得た。まず，目標について，韓国では，近代以降西洋の教育思想を吸収してきたとはいえ，儒教思想からの影響がいまだ深く根づいており，現在における道徳資料の目標も根本的には変わっておらず，伝統的な「礼」など儒教思想に基づく目標が明確に示されている。次に，内容について，韓国では，愛国主義，集団主義的な内容の含まれている道徳資料が小学校低学年の段階から多く見られ，政治と一体化した道徳教育が行われている。さらに，教科書について，韓国では，内容レベルを経て資料レベルになると，「礼」という道徳的価値だけに限定するのではなく，他の道徳的価値が生活に即して繁雑に混在されたものになっている。道徳教育に即効性を求める傾向があり，大量の知識を教えるようにするため，相手への尊重や思いやりから価値についての自覚を内的に深め，道徳の大切さを理解させるための配慮が十分ではないと考える。

５．おわりに

本稿では，日中韓三カ国の大きな特質について，まず一部分の道徳的な内容であるが，筆者は，「礼」の視点から韓国における小学校第１学年の「正しい生活」の特質を解明した。今後の研究課題としては，本稿で得られた知見を踏まえて，分析対象としてより多くの１年生の資料を追加して，研究の信頼性をあげるとともに，さらに，日本と中国をあげていくことと，「礼」視点からも研究していくことを考えている。

註

（１） 新渡戸稲造は『武士道』の著の中で，本当の礼は，他人の感情に対する同情的配慮が外に現れ出たものであるべきである。礼は，また，本来よろしきを得た事物に対する，相応の尊重，それゆえに社会的地位に対する相応の尊敬を意味する。また，『教育勅語』

に関しては杉浦重剛翁の御進講草案が特に注目されるものであり，「恭倹の二字，ともに礼節の意味を含む。品性の崇高なる人は，何事にも恭敬，謙譲の態度を以てこれに臨む。故に人をして奥床しき感を与へ，尊敬の念を起さしむ。『みのるほど首をさげる稲穂かな』とは，恭倹の徳を詠嘆せるものなり」と述べている。

（2） 押谷慶昭『道徳の授業理論』教育開発研究所，1989年，p. 25

（3） http://www.mext.go.jp/component/a-menu/education/detail/ (2013.11.28)

（4） 王凌浩『小学道德课研究』济南出版社，2001 年
桂勤『从儒家传统走向现代的反思』湖北教育出版社，1996 年

（5） 曹能秀『当代日本中小学道德教育研究』商务印书馆，2007 年
饶从满『现代日本小学校教育』山西教育出版社，1999 年

（6） 間瀬正次『戦後道徳教育実践史』明治図書出版社，1982年
木原孝博『道徳教育の理論』明治図書出版社，1995年
馬越徹『比較教育学―越境のレッスン』東信堂，2007年

（7） 교육부『초・중등학교 교육과정 해성』서울・대한교과서주식회사，1994 년

（8） 王麗栄『当代中日道德教育比较研究』广东人民出版社，2007 年

（9） 姜英敏『日韓道德授業理念の比較研究』北京師範大学出版社，2005年

(10) 教育部『教育法』

(11) 教育部『教育部告示『2007年改訂教育課程　小学校教育課程―国民共通基本教育課程―』，大韓教科書株式会社，1998年版

(12) 한국교육과학기술부『초등학교교육과정해설』(제 2007-79 호)137 쪽

(13) 同上

(14) 同上

(15) 詳しくは，『日中における小学校第 1 学年の道德資料に関する比較検討』(投稿中) を参照

(16) 同上

(17) 同上

参考文献

1．교육인적자원부『초중고등학교도덕과교육과정의 기준(1963-1997)』，2001 년

2．교육과학기술부『중학교교육과정해설Ⅱ(국어,도덕,사회)』237-243 쪽，2008 년

3．한국교육과학기술부『교육과학기술부고시제 2011-361 호(별책 6)』27－29 쪽，2011 년

4．한국교육과학기술부『초등학교교육과정해설』(제 2007-79 호)242 쪽

5．교육과학기술부『2007 년개정교육과정에 의한중학교도덕교육교과서집필기준』교육과 학기술부홈페이지，2007 년

6．교육과학기술부『2009 년개정교육과정에 의한중학교도덕교육교과서집필기준』교육과 학기술부홈페이지，2001 년

7．新渡戸稲造著　山本博文訳『武士道　現代語訳』岩波書店，1961年

8．宇野精一『儒教思想』講談社学術文庫，昭和21年
9． 王麗栄『当代中日道德教育比较研究』广东人民出版社，2007 年

Comparative Study on Moral Teaching Materials in China, Japan and South Korea Analyzing a South Korean Elementary School Grade 1 Textbook from a Perspective on "Etiquette"

NA Le

As an important part of moral teaching in Japan, China and South Korea and the basis for a comparative moral study, this study focuses on an analysis of a textbook used in the first grade of a South Korean elementary school entitled "right living." We mainly focus on three parts: objectives, content and textbooks from the Confucian point of view. The findings are as follows:

First, regarding the objectives, although modern South Korea is said to have absorbed western culture and ideas, Confucian thought is still deeply rooted within the fabric of society, and moral teaching materials have not fundamentally changed; traditional Confucian thought on "etiquette" is still clearly visible.

Next, we examined content. In South Korea, moral teaching materials for grade 1 and grade 2 in elementary schools included instruction on basic daily etiquette, patriotism and collectivism. In conclusion, moral education is closely integrated with the country's political character and beliefs.

Lastly, we researched textbooks and found that textbooks based on a curriculum of moral teaching contain not only instruction on "etiquette" but also teach complex moral values, however these textbooks tend to seek an immediate effect on moral education through delivery of excess knowledge, and disregard the importance of moral education and specific practices.